



芝浦工業大学大学院 大久保尚人

知性と反知性のあいまに生きる

住宅は便利になりすぎなのではないだろうか。私の中には二つの感情がせめぎ合っている。便利に、不便なく暮らしたいと願う「知性主義的な自分」と野性的で外部環境との繋がりを求める「反知性主義的な自分」である。そんなせめぎ合う感情をワンルームといういわば自分のありのままを表現できる空間で創造することを試みた。知性主義的な自分には、安定と利便性を兼ね備えた内部空間を設え、反知性主義的な自分のは限りなくありのままの自然な半外部空間を設える。その双方は、時に半外部に知的行為を展開し、また時に、内部に反知性的行為が忍び込んでくるような関係性が創られいく。そうして出来た空間では、自分の中でせめぎ合う相対する感情に移ろいを感じながら過ごすことができる豊かな暮らしがあるのではないだろうか。

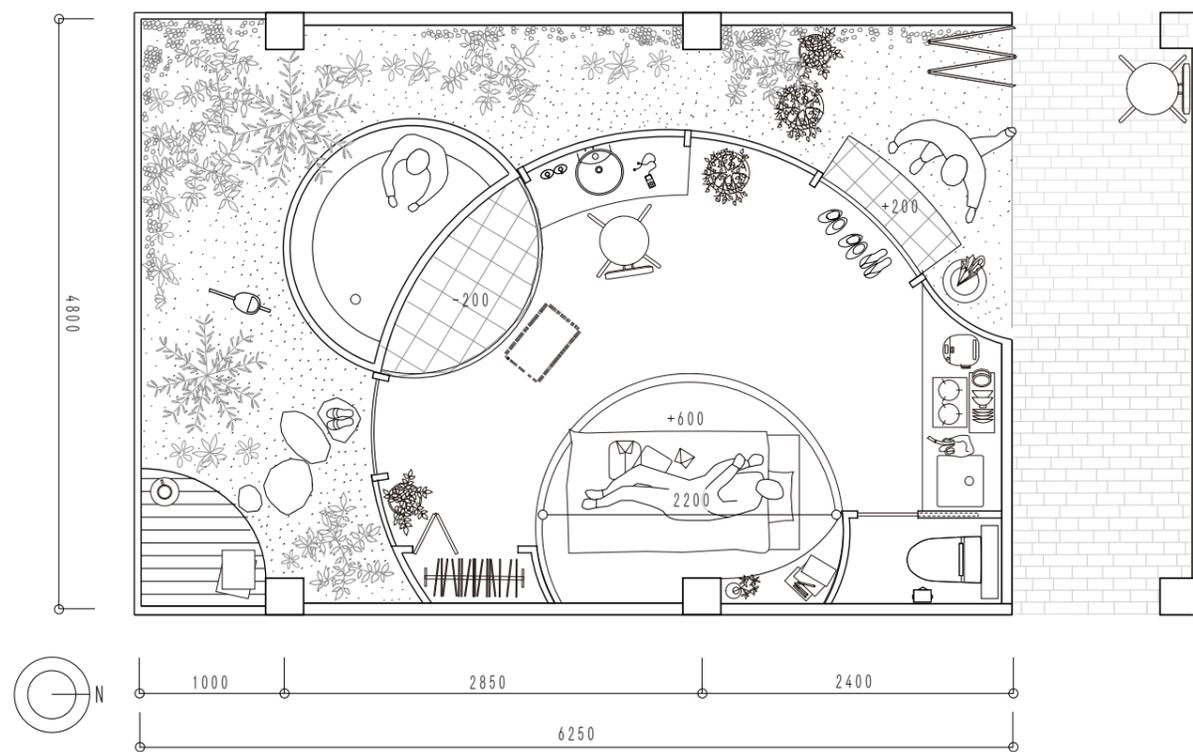




知的な空間



反知的な空間



計画としては、まず内部空間は寝床を中心とした放射状にキッチン、浴室、トイレを配置し、小さい面積に対して特殊な形状ながらも無駄のない Planning としている。内部空間の中には適切に段差を設け、空間の中に変化をつけている。自然を存分に感じられる外部空間は、内部空間に巻き付くように計画し、その境界が曖昧になるようにしている。木製の冊子フレームで境界を構築することで、自然と馴染むようになる。一部、生活のため便利な空間を外部空間に設けたり、逆に、内部空間の中に、外部的な要素を忍び込ませることで、隣接する異なる質の空間が、お互いにせめぎ合いながら、無理なく緩衝しあい、これまでにない多様で変化のある豊かな空間となる。



知性と反知性のあいまで